

ボランティア活動通信 No.2

令和5年10月

2023年9月・10月のボランティア活動では、引き続き古文書(福島家文書)の整理を行うとともに、今年4月に受け入れた浄福寺文書(呉市)の和書や漢籍類の整理に取り組みました。

10月18日には、国立歴史民俗博物館の天野真志先生、東京大学史料編纂所の山口悟史先生、奈良県立橿原考古学研究所の奥山誠義先生、中尾真梨子先生が来館され、応急処置を終えて保存している被災資料(榎林家文書)をボランティアのみなさんと一緒に点検し、文書に残留している臭気対策や劣化した文書への対処などについて、先生方から具体的なアドバイスをいただきました。また、翌19日には、天野先生と山口先生、安田女子大学の安田容子先生にご指導いただいて、被災して廃棄された災害ゴミの中からレスキューした屏風の下張り文書の剥離作業にもチャレンジしました。

令和5年9月～10月 活動日15日 活動参加者のべ人数 112人

- 福島家文書の整理 整理点数(手書き目録) 約400点
手書き目録データのパソコン入力(エクセルファイル) 約500点(約1,100件)
- 浄福寺文書の整理 整理点数(手書き目録) 132点
手書き目録データのパソコン入力(エクセルファイル) 132点

浄福寺文書の和書・漢籍類の整理

- ① 文書の状態を撮影します。
- ② 文書番号を付けます。
- ③ 文書の埃や汚れなどを刷毛で丁寧に払います(ドライクリーニング)。
- ④ 1点ずつ目録を採ります。
- ⑤ 手書き目録をパソコンに入力します。
- ⑥ 中性紙の保存箱に収納します。



① 受け入れた箱ごとに撮影した浄福寺文書



② 文書をラックに並べて1点ずつ文書番号を付けます。



③・④ 刷毛で1冊ずつ文書の埃や汚れを丁寧に払い、手書き目録を作成しました。難しい漢字や書名などを一緒に調べながら、みんなで分担して作業を進めます。



⑤ 作成した手書き目録をパソコンに入力



⑥ 中性紙の保存箱に収納した整理済みの文書

10/18

来館された先生方と一緒に被災資料(楨林家文書)を点検しました。



▲山口先生 ▲奥山先生



▲中尾先生



▲天野先生



保存箱から被災文書を出して、みんなで文書に残留している臭いや劣化の状態を確認しました。被災から5年が経過し、文書の臭気はかなり軽減しています。和紙の帳簿類は水損で劣化していますが、墨で書かれた文字は読むことができる状態です。

保存箱内の空気循環と臭気の発散を促すための仕切り(赤矢印)です。天野先生作成。

10/19 被災した屏風の下張り文書の剥離作業にチャレンジ！



①屏風全体の寸法を計測し、縁(ふち)をパールやマイナスドライバーで取り外します。



●屏風の紙の蝶番(ちょうつがい)の仕組みを説明する山口先生



被災した葉書や書簡類は7000点以上。破損がひどく開披できないものもありました。



④剥がし終えた文書は、各層ごとに番号順に重ねて薄葉紙で包み、保存箱に収納。



●文書の破片の仮止め
山口先生に、破れてしまった文書の破片を小和紙片と生麩糊で仮につなぎ止める方法を教えていただきました。



②屏風の各層ごとの文書に番号を付けて、スケッチとデジカメ撮影で記録します。



③各層の下張り文書を1点ずつ剥がしていきます。糊付けされた部分に慎重に竹べらを差し入れて少しずつ剥がしました。みなさん、作業に熱中！